

# 春日井市における地域や居住者の特性に合わせたMM実施計画の策定

春日井市まちづくり推進部都市政策課  
一般財団法人 計量計画研究所 交通・社会経済部門

○津田 哲宏  
西鶴 誠希・羽佐田 紘之・萩原 剛

## 背景・目的

愛知県春日井市は、名古屋圏を代表する住宅都市として良好な住宅地を形成し、人口31万人を超える大きなライフタウンとして発展してきました。一方で、一部地域では、人口減少や高齢化が進行しており、多様な公共交通の利便性を確保し続けるためには、より多くの市民に公共交通を利用していただくことが必要です。

## 実施計画策定の目的

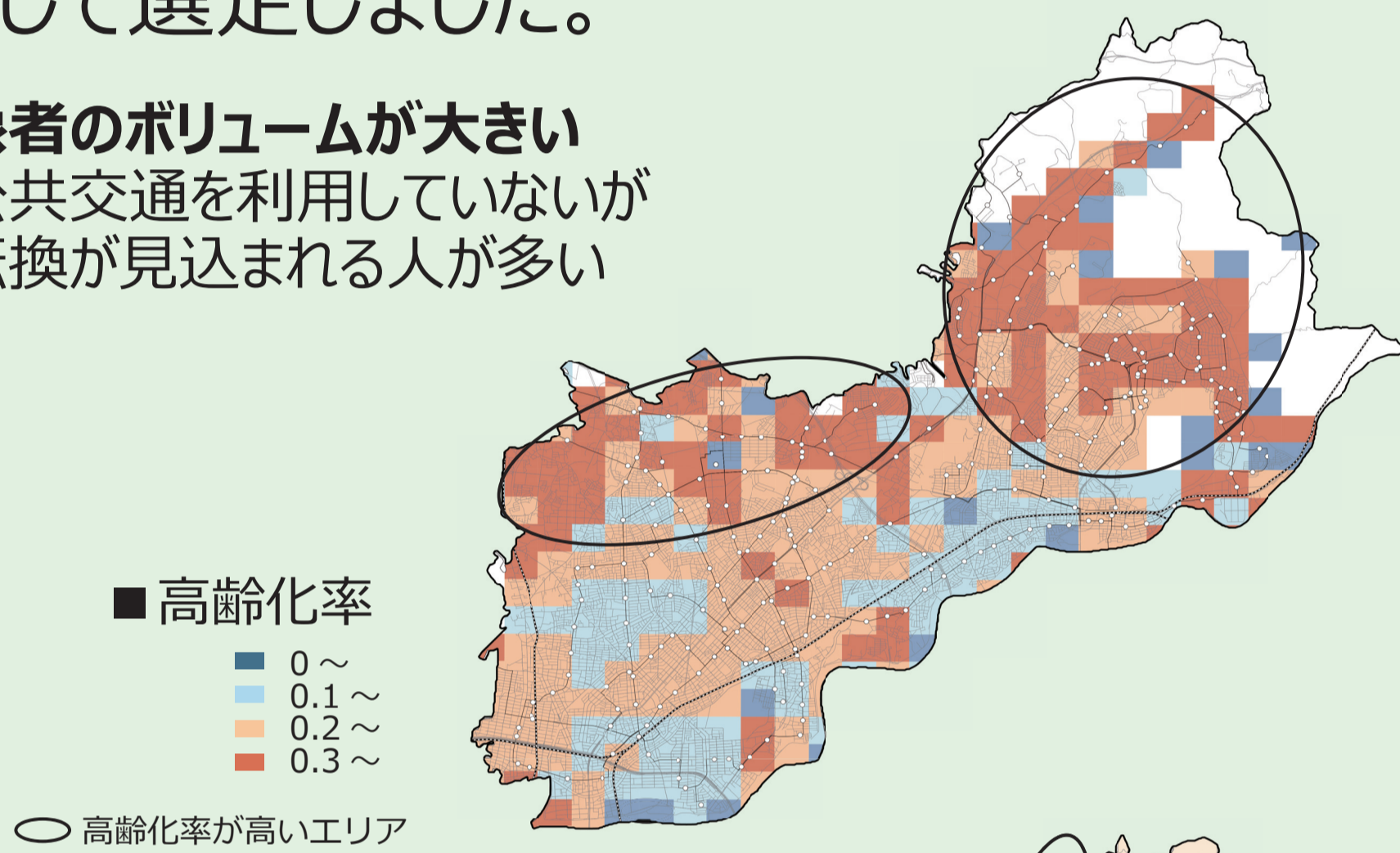
本実施計画は、春日井市における今後3ヶ年のモビリティ・マネジメントの実施方針と具体的な取組内容の方向性を定める内部文書であり、春日井市内部や関係者での意識共有・確認を図るために作成しました。

## 実施計画の策定

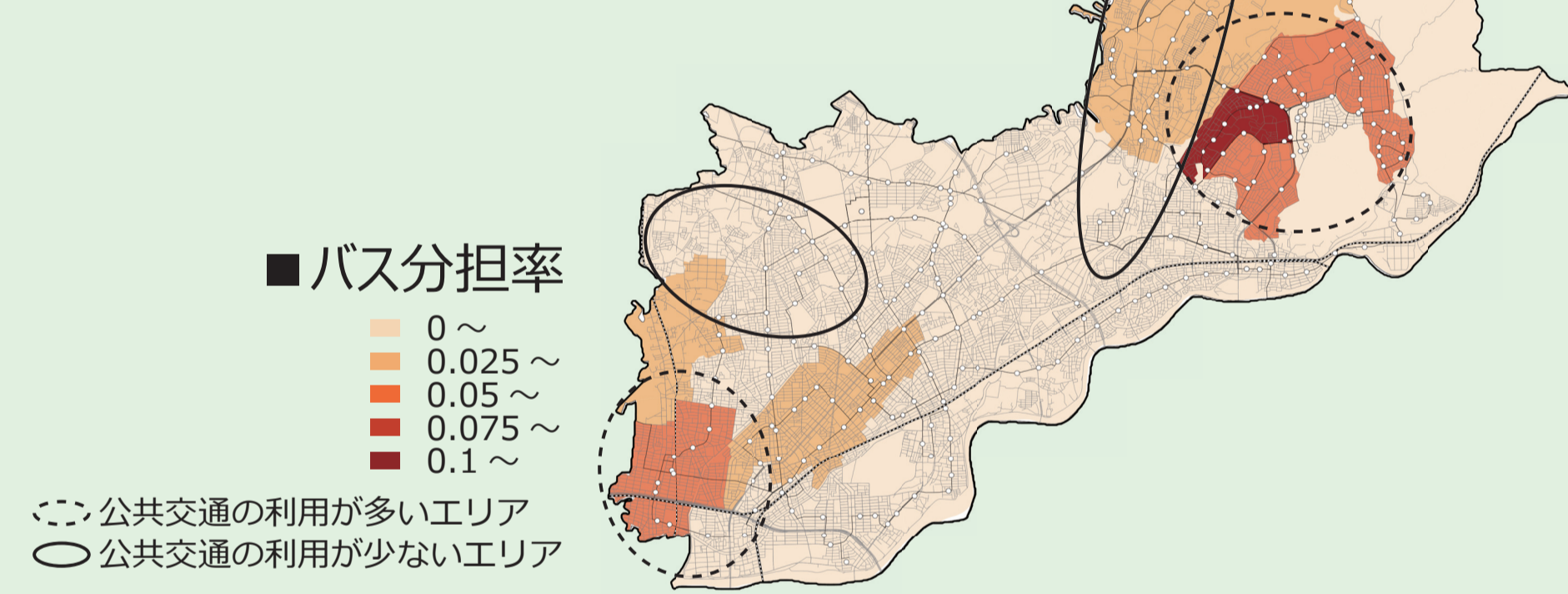
### 対象エリアの選定

①対象者のボリュームが大きく、②行動変容率が大きい4つのエリアをMMの効果が高いエリアとして選定しました。

①対象者のボリュームが大きい  
現在公共交通を利用していないが利用転換が見込まれる人が多い



②行動変容率が大きい  
現状公共交通の利用が少ない



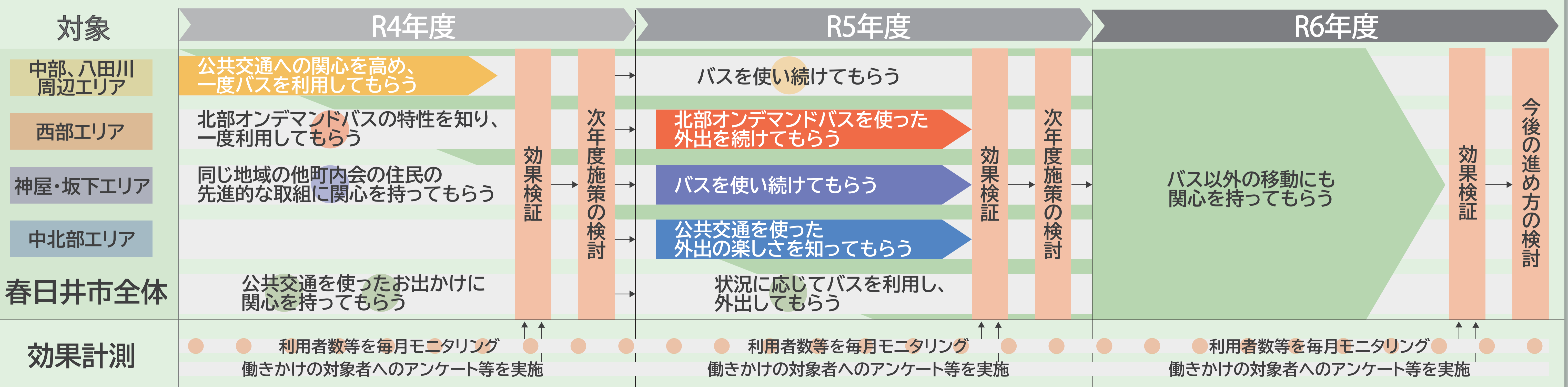
### ペルソナの設定

典型的な公共交通の利用者／非利用者像をペルソナでイメージし、そのニーズを満たす施策を検討することで、結果的に多くの市民に満足してもらうことを目指しました。“データ”に基づく具体的な内容が、“現地の感覚”と矛盾しないことを重視しています。クルマ社会のあなたの街にも、こんな人はいますよね？

エリア	ペルソナ
<p><b>ペルソナの具現化</b> 一目でわかる代名詞+ランキング上位の名字で名付け →身近にいなそうなペルソナからイメージを膨らませることが出来る</p> <p>モーニング通い 伊藤さん</p> <p>属性 年齢・性別だけでなく世帯構成も重要</p>	<p><b>普通の移動・活動</b> ・自動車を世帯で2台保有し、免許の返納予定はなし ・自分で運転し、毎日モーニングの後に清水屋で買い物</p> <p><b>公共交通へのアクセス</b> ・丸田小学校区に移住し、名鉄バスシティバスのバス停まで200m ・バスは片道3本/時</p> <p><b>モビリティへの思い</b> ・昔はバスで通勤していたが、今はバス停も遠く、便数も少ないのでは？と感じている</p> <p><b>期待する行動変容</b> ・バスを一度使ってみて、意外にもバスが充実していることがわかり、以前のようにバスを使って移動するようになる</p>
	<p><b>移動のポテンシャル・制約</b> 現在の移動状況やアクセシビリティを詳細に整理 →行動変容が可能かを議論できる</p> <p><b>価値観</b> モビリティに対する意見を想定 →施策への反応の予想に活かせる</p> <p><b>効果</b> 施策実施後の行動・思考を明確に →施策の目的を確固たるものにできる</p>

## ロードマップ

上記で設定したペルソナをもとに、施策前後の意識や行動の変化を踏まえ、「だれに」「なにを」「なぜ」伝えるのか、また「働きかけの例」、「施策の評価」を各年度および各エリアごとに丁寧に整理し、それらの関係がわかるようなロードマップを作成しました。



## 結論

入念なデータ分析によりエリア選定やペルソナ設定を行い、具体的かつ一貫した働きかけを検討する、という実施計画策定の一連の流れは、他地域でも大いに活用できると考えられます。

## 今年度の取組

- 西部エリア**：北部オンデマンドバスのヒアリング調査を実施し、初めて利用する人は乗降時間が読めないことに不満を持つ人が多いことが分かりました。今後は、リーフレットを沿線地域へ配布していきます。
- 中部、八田川周辺エリア**：ワークショップで地元高齢者が作成したお出かけマップを基に、行動プラン票を含めたチラシを配布する予定です。
- 神屋・坂下エリア**：新たに導入されるミニバスの利用促進を図るためのチラシを配布する予定です。
- 市全体**：クルマへの意識の変化を図りながら、公共交通を使ったお出かけに関心を持ってもらえるようなリーフレットを配布する予定です。